

ホーチミン医科大学訪問

訪問日時:2013年6月17日午後2:00-午後4:00

場所:ベトナム ホーチミン市 ホーチミン医科大学

出席者:

大阪市立大学

医学研究科長 荒川哲男

ホーチミン医科大学

Vice President, Associate Professor of Medicine, Dr. Do Van Dung, M.D., Ph.D.

Deputy Chief, Office of International Affairs, Consultant Hematologist, Pham Qui Trong, M.D.

Associate Professor, Head of Respiratory Medicine Department, Dr. Tran Van Ngoc, M.D., Ph.D.

他 Dr. 2名

Excutive officer, Office of International Affairs, Ms. Thanh Truong

ホーチミンは人口800万で、ベトナムの人口の10%が集中する最大都市。6月17日の午後2時に、ホーチミン医科大学の国際交流センターを訪問しました。迎えてくれたのは、副学長 Do Van Dung 先生、国際交流センター長代理の Pham Qui Trong 先生ら執行部とスタッフ3名。医科大学ですが、学部が7つ(医学部以外に薬学部、歯学部、公衆衛生学部、看護学部など)もあるそうです。医学部の学生は、なんと1学年700名。どういう教育をしているのか想像できませんが、海外からも数十名の留学生を受け取っているとか。カンボジアやラオスなど、近隣国が多いようですが。





学生数がこんなに多いのは、医科大学がベトナムに7つしかないことが理由のようです。8000万人の人口をカバーするには、3500～4000人の医師を毎年排出してもまだ足りません。

附属病院は新築移転中で1000ベッドを有しています。ここを受診するためには、2回段階的に医療施設を経ることが必要だそうです。そうやってフィルターをかけないと回らないのでしょうか。それにもかかわらず、午後3時でも外来は溢れ反っています。消化器内科では、Duc講師がリーダーで内視鏡検査をしています。ルーチンの上部消化管内視鏡検査300件/日、下部消化管内視鏡検査40件/日(年間5万件)をこなしています。朝早くから午後4時頃までみっちり。内視鏡治療などしている余裕はないらしい。





新病院だけに、さすがきれいでした。総合内科の病棟を見せてもらいましたが、2人部屋にも洗面・トイレがついていていい感じでした。外来に比べて入院患者が少ないので、アレッと思いました。この病棟は2週間前にオープンしたばかり。旧病院の方にまだ大半の患者が入院していると。

さて、国際交流の話ですが、どうも先方は、受け入れる側としては、医療レベルや教育レベルにおいて自信がないような印象を受けました。しかし、医療レベルとしては、少なくとも消化器内科的にはインドネシアのイルランガ大やガジャマダ大学よりは進んでいます。送り出す立場からも、経済的な困難性(物価が違いすぎるなど)があり、優秀な学生に当方から奨学金を支給するとか、日本の国費留学生制度を紹介するなどの手段を用いて、こちらが受け入れることから始めたほうがよさそうに思いました。また、こちらからスタッフを派遣して、先進医療を指導して欲しいとの要望を受けました。ベトナムは親日的で、日本はアジアの兄貴分として、発展途上国に対する医療貢献という意味で協力してあげたいと感じました。

東南アジアの医療は、シンガポールやタイは別としても、まだまだ遅れているので、優秀な学生やスタッフを日本に招き、日本の医療や研究に貢献してもらいながら、先進医療や先端的研究を指導し、将来の母国の指導者になってもらえれば、お互いの国にとってメリットがあると思います。

先方のアクションを待って MOA(国際交流協定)を結びたいと思います。

(文責:荒川哲男 医学研究科長 2013.6.24)